婦人科における精神神経症状に対する漢方薬の使い分け

クリニックすみた 婦人科（愛知県） 隅田 寿子

更年期症状や月経前のイライラ、産後や月経前の気分の落ち込みなど、婦人科においてホルモンの変動による精神神経症状を呈する方は多く、それらの症状に西洋薬は効果的だが内服できない方も多い。さまざまな症状の外来患者に症状ごとに漢方薬を使い分け、効果のあった症例を報告する。

Keywords 婦人科、精神神経症状、加味逍遙散、加味帰脾湯、抑肝散加陳皮半夏

緒　言

更年期症状や月経前のイライラ、産後や月経前の気分の落ち込みなど、女性はホルモンの変動により感情のコントロールが難しくなることがある。西洋薬（ピルや向精神薬など）が効果的であるが、ホルモン剤を希望されない方、妊娠や授乳中で内服できない方、西洋薬の副作用（眠気・倦怠感・悪心など）で内服できない方も多い。そういった婦人科外来の患者さんで精神神経症状を呈する方に漢方薬を処方し、効果のあった症例を経験したので報告する。

症例 1　39歳、女性 加味逍遙散

【主　訴】 イライラ、肛門痛

【既往歴】 2経妊2経産

【現病歴】 月経は規則的で28日周期である。月経前はイライラしていた。経血塊は小さいものがいくつも出る。月経痛も強く、痛み止めは毎月内服していた。25歳頃から夜間に肛門痛がたまに起こるようになった。プライベート・仕事ともに多忙であったため病院を受診する機会がなかった。39歳から月経前のイライラが増悪し、月に何度も夜間の肛門痛が出現するようになり当院を初診。

【現　症】 身長：158cm、体重：55kg（BMI 22）

舌診：淡紅、胖大なし、薄白苔、舌下静脈怒張軽度

【処　方】 クラシエ加味逍遙散（6.0g、分2）

多忙によるストレスやイライラがあることから肝気鬱結と考えた。肛門痛は持続痛ではなく、出現が不規則なので、ストレスによる肝疏泄機能の低下から督脈・任脈の気血の流れが滞り『不通則痛』で、肛門痛が起こっていると考えた。経血塊と舌下静脈の軽度怒張といった瘀血も認められるので、疏肝解鬱と駆瘀血のある加味逍遙散を選択し初診より処方した。また、構成生薬の芍薬・甘草に、肛門痛への鎮痛効果も期待した。

【経　過】 1ヵ月後、肛門痛の頻度は変わらないが、強さが和らいだ。2ヵ月後、肛門痛は1回のみに軽減した。この頃からイライラが軽くなった。4ヵ月後、気づけば肛門痛は起こらなくなった。イライラは多忙の度合いで多少波はあるが、以前の3割くらいで楽になったとのこと。現在も同処方を継続中である。

症例 2　35歳、女性 加味帰脾湯

【主　訴】 不安感、熱発、筋肉痛

【既往歴】 2経妊2経産

【現病歴】 物事を考え込んでしまうタイプ。1年4ヵ月前に第2子を出産。産後から不安感とイライラが出現するも、育児と家事の疲れと思い様子をみていた。

8ヵ月前に授乳を中止。6ヵ月前から月経再開。月経が再開すると、排卵日と月経前の1週間に38℃以上の熱がでるようになった。熱発・解熱を繰り返し、解熱中は悪寒が出る。

5ヵ月前から発熱時に全身の筋肉痛も伴うようになった。不安感は増悪し、中途覚醒するようになり、月経周期に関係なく疲労時に筋肉痛・倦怠感が伴うようになった。3ヵ月前より中途覚醒・不安感・発熱・筋肉痛・倦怠感が毎日起こるようになったため、総合病院を受診。膠原病・甲状腺疾患の精査は全て異常なし。症状持続するため当院を受診。

【現　症】 痩せ型。表情は暗く、問診中に泣きだしそうになる。中途覚醒あり。1日3食（1回量は低下）、排便はほぼ毎日あり（下痢もしくは軟便が多い）。

身長：161cm、体重：48kg（BMI 18.5）

舌診：淡紅、舌尖紅、胖大なし、薄白苔、舌下静脈怒張軽度

【処　方】 クラシエ加味帰脾湯(7.5g、分2)

痩せ型から脾気虚、産後で血虚もあり気血両虚。思慮過度でさらに脾気虚が増悪している。育児・家事の疲労・ストレスにより肝気鬱結となり、肝気鬱から化熱し、月経周期に沿って熱発・関節痛・筋肉痛が出ると考えられた。気血双補と清熱、解鬱をすべく加味帰脾湯を選択し初診時より処方した。

【経　過】 初診時の経膣エコーと子宮頸部細胞診は異常なし。内服開始から数日後より、筋肉痛・悪寒・倦怠感が軽減。4週間後に再診。悪寒が消失し、発熱・筋肉痛は月経前数日に軽度出現するのみであった。不安感も軽減し、睡眠障害は改善していた。その後、引っ越し・夫の海外転勤・海外移住のための子供の学校の手続き等で精神的・肉体的なストレスが強かった月は、月経1～2日前に筋肉痛が軽度出現するも生活に支障のない程度であった。現在も同処方で症状は落ち着いている。

症例 3　47 歳、女性 抑肝散加陳皮半夏

【主　訴】 月経前のイライラ・涙もろくなる

【既往歴】 1経妊1経産、アレルギー性鼻炎、不眠、腰痛

【現病歴】 シングルマザー。アレルギー性鼻炎・不眠・腰痛のため4ヵ月前から他院より当院の内科へ転院された。40歳を過ぎたころから、月経前にイライラするようになった。感情のコントロールがつきにくく、気分が落ち込み涙もろくなることもあったが、月経開始と同時に症状が消失するのでとくに受診はしていなかった。ストレスがかかると胸やけ・悪心から食欲不振となり、気を付けないと体重が減ってしまう。3ヵ月前に職場が変わり、月経前のイライラと涙もろさのコントロールがつかなくなった。2ヵ月前から月経前に、フワフワするめまい・頭重感も伴うようになった。特に夜間は胸がざわざわとした不安な感じになる。月経が終わっても症状が残るため、月経16日目に当院の婦人科を受診。

【現　症】 月経:25日周期。ハキハキと喋る、入眠障害あり

身長：152cm、体重：43kg(BMI 18.6)

舌診：やや暗、胖大あり、薄白苔、歯痕あり、舌下静脈怒張軽度

【処　方】 クラシエ抑肝散加陳皮半夏(7.5g、分2)

痩せ型、アレルギー体質であることから、脾虚と痰湿があると考えた。家庭環境と職場の変化からのストレスで肝気鬱結となり、イライラしたり、涙もろくなったり、気分の落ち込み、不眠が出現している。疎肝解鬱、補脾、去痰をすべく、抑肝散に陳皮と半夏を加えた抑肝散加陳皮半夏を選択し婦人科受診より処方した。

【経　過】 2週間後にフワフワ感と頭重感は軽減した。夜の不安感は落ち着いたが、朝はまだ気持ちが重い状態であった。5週間後にイライラ・涙もろさともにコントロールができるようになってきた。たまに不安感が出現するも軽度である。9週間後、症状はほぼ落ち着いているため同処方を継続とした。その後、父親の入院・看病が始まった。同時期に職場での仕事量が増えて負担が増えた。11週間後、急に感情のコントロールがつかなくなり、動悸が酷くなったため、心療内科を受診。西洋薬で症状は消失した。精神症状に関しては、漢方薬は中止し、引き続き心療内科を受診することとなった。以後も当院には、眠剤、保湿剤、湿布、鎮痛剤等の処方希望で毎月受診されていたが、母子保健が切れたため、受診が途絶えている。

考　察

肝の疏泄機能とは、主に月経のリズム、感情のコントロール、胃腸の働きなどにかかわり、その機能が失調すると月経・感情・胃腸の動きの調節がうまくできず多愁訴になる。

さまざまな精神神経症状に対して筆者は、出産と関係なく、月経周期に伴った不調があるときまずは加味逍遙散を考える。月経前にイライラ、頭痛を訴え、経血量が減少、家族につらく当たってしまう患者に加味逍遙散を投与したところ、イライラと頭痛が改善したケースも経験している(**症例 4；表**)。今回、複数の患者より興味深いコメントがあった。「クラシエ加味逍遙散は薬の香りがよくす

表　症例一覧

	精神症状	随伴症状と舌所見	体質・背景	証	処方
症例1	イライラ	肛門痛・舌下静脈怒張軽度	ストレス	肝気鬱結	加味逍遙散
症例2	不安	発熱・筋痛・不眠・舌尖紅	悩みやすい・出産・育児	心脾両虚、肝気鬱結、気鬱化熱	加味帰脾湯
症例3	イライラ	涙もろい・めまい・食欲低下・やや暗・胖大歯痕あり	鼻炎・ストレス	痰湿、肝気鬱結	抑肝散加陳皮半夏
症例4	イライラ	経血減少・側頭部頭痛・舌下静脈怒張	鼻炎・ストレス	肝気鬱結、瘀血	加味逍遙散
症例5	不安	不眠・不正性器出血・舌尖紅	出産・育児	心脾両虚、肝気鬱結	加味帰脾湯

る」、「包装のデザインが可愛いので内服継続意欲が湧く」、「細粒なので歯茎に挟まりにくく、口の中に残らないので飲みやすい」といった内容である。いずれも他院にて同処方（他社製品）を服薬していた患者であったことから、処方名は同じでも製品によって、香りやQOLが異なる事が考えられた。加味逍遙散には構成生薬としてボタンピやハッカといった精油成分を含有する生薬が含まれているため、メーカーによる違いがあるのかもしれない。ボタンピの精油成分であるペオノールには、抗炎症、鎮静、鎮痛作用が報告されている[1)]。さらに、脳での語想起や計算の課題の情報処理を円滑にし、脳の負担を軽減した報告もある[2)]。今回の症例では、イライラや肛門痛、頭痛の改善にもペオノールが寄与した可能性も示唆される。

出産・家事育児の疲労で気血両虚となっている方には帰脾湯、さらにストレス（家事育児・夫の転勤など）が加わり肝気鬱結となった場合は加味帰脾湯が適当であると思われる。育児と家事から不安感、気分の落ち込み、不眠（中途覚醒）を訴えた患者に加味帰脾湯を投与したところ、服用1週間で不安が軽減し眠れるようになったケースも経験している（**症例 5；表**）。加味帰脾湯・帰脾湯は、授乳中でも内服可能な点が特に良い。1日2回服用タイプは飲み忘れが少なく、家事や育児に忙しくて自分のことが後回しになってしまう女性には特に喜ばれる。加味帰脾湯は錠剤もあるので散剤が苦手な人にも処方しやすい。

肝気鬱結、痰湿がある場合は抑肝散加陳皮半夏を選択している。疏肝解鬱の抑肝散に化痰作用のある二陳湯が加わり、めまいや食欲不振などの症状が併発する場合にも処方できる。今回の症例のように、急な環境の変化で精神症状がひどく悪化した場合などには、漢方薬のみでは管理が難しいこともある。その場合は、西洋薬との併用もしくは変更を考慮する必要がある事を忘れてはいけない。

まとめ

婦人科外来では、精神神経症状に対して西洋薬による治療が困難な患者も多い。漢方薬を使い分けて治療をすることで、診察の幅が広がるのではないかと考える。

〔参考文献〕

1) 原田正敏 ほか: 牡丹皮の薬理学的研究（第2報）ペオノールの抗炎症作用，ストレス胃エロジオン抑制作用，胃液分泌抑制作用ならびにその他の薬理作用．薬学雑誌 92: 750-756, 1972

2) 与茂田敏 ほか: 加味逍遙散料の精油成分に関する研究．phil漢方 63: 30-32, 2017